市民経済委員会会議録

平成20年10月20日(月)

(開 会) 13:30

(閉 会) 14:47

○ 委員長

ただ今から市民経済委員会を開会いたします。

「議案第89号 契約の締結(鯉田工業団地造成(1工区)工事)」および「議案第90号 契約の締結(鯉田工業団地造成(2工区)工事)」の2件を審査いたしますが、本案2件につきましては関連がありますので、一括して補足説明を受け、質疑討論を行っていただき、採決につきましては、各議案ごとに行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

「議案第89号 契約の締結(鯉田工業団地造成(1工区)工事)」および「議案第90号 契約の締結(鯉田工業団地造成(2工区)工事)」の2件を一括議題といたします。

執行部の補足説明を求めます。

○ 契約課長

提案理由にもありましたように、企業誘致に向けて1日も早く工業団地を完成いたしたいことから再提案を申し上げたものでございます。関連がございますので、「議案第89号 契約の締結(鯉田工業団地造成(1工区)工事)」および「議案第90号 契約の締結(鯉田工業団地造成(2工区)工事)」の2件について一括して補足説明をいたします。

議案書の1ページをお願いいたします。本件工事請負契約の締結につきましては、地方自治法第96条第1項第5号の規定に基づき、本案を提出するものであります。さきの議会にご提案いたしました内容と同一のものでございますので、簡潔にご説明をいたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

議案第89号の鯉田工業団地(1工区)工事につきましては、契約金額は4億3,101万8,700円で、森本・修成・山常特定建設工事共同企業体 代表者 株式会社森本組九州支店 支店長 榎本武揚と契約を締結するものであります。

2ページの議案資料をお願いいたします。工期につきましては、本契約として認められた日から平成22年3月31日までとし、工事概要につきましては記載のとおりでございます。内容についての説明は省略させていただきます。

次に、3ページには工事箇所の位置図を、4ページには1工区及び2工区の工区割の記載された土地利用計画図を添付しております。

お手元別途配布しております、工事請負契約議案資料の1ページをお願いいたします。9月12日に入札を執行いたしましたけれども、その結果落札額4億3,101万8,700円、落札率84.99%で、森本・修成・山常特定建設工事共同企業体が落札したものであります。

次に議案書の5ページをお願いいたします。議案第90号 鯉田工業団地造成(2工区)工事につきましては、契約金額は3億3,361万200円で、あおみ・坡平・清水特定建設工事共同企業体 代表者 あおみ建設株式会社九州支店 執行役員支店長 亀山富士夫と契約を締結するものであります。

6ページの議案資料をお願いいたします。工期につきましては、同様の平成22年3月31日までとし、工事概要につきましては、記載のとおりでございます。

お手元の工事請負契約議案資料の2ページをお願いいたします。本工事の入札執行状況につきましても9月12日に入札を執行いたしました。落札額3億3,361万200円、落札率84.99%で、あおみ・坡平・清水特定建設工事共同企業体が落札いたしましたものであります。

以上簡単でございますが、議案第89号、および議案第90号の補足説明を終わります。

○ 委員長

次に、本案2件については、本日の本会議において、審査要望がっております。

31番議員から審査要望のありました事項について、執行部の説明を求めます。

○ 産学振興課長

先ほど審査要望がございました緊急に議決を得なければ起こりうる執行事務への支障は何かということにつきましては、ご承知のように、市内20箇所の工業団地につきましては、リサーチパークを除き、ほぼ完売状態となっておりますので、平成22年4月からの分譲開始に向け、鯉田工業団地の造成に向けて取り組んできたところでございます。他の自治体におきましても企業誘致を推進してございまして、自治体間競争に打ち勝っていくためにも、一日でも早く工業団地を完成させる必要があるというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○ 契約課長

先ほど永露議員のほうから審査要望が出されておりました、議案が否決され仮契約の相手方に対して通知を行った時点で当該仮契約は無効になっていないのかということにつきましては、市が送付した通知につきましては、議会で否決となったことから、その結果を請負者に伝えるため通知をいたしました。この通知につきましては、本契約にならないということを伝える意味の内容で、正確には本契約の効力が生じないということを伝えたものであります。

その後、市といたしましては再提案する方針を決定し、改めて当該仮契約書の内容を双方確認いたしておりますので、これについての無効ということの問題は一切ございませんし、またこのことにつきましては、念のために福岡県市町村支援課並びに顧問弁護士等に確認いたしましたけれども、なんら問題はないとの回答を得ているところでございます。

○ 委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

○ 岡部委員

今度の工業団地の中身については先の9月議会の中の所管の委員会でもお尋ねいたしましたし、自分の意思としては討論の中でも述べさせていただいておりますけど、今度再提案をされたことにあたって、基本的なことだけ1、2件お尋ねいたします。

このアメリカのサブプライムローンに端を発した世界全体の金融の混乱というか、この問題、そしてこういう状況下の中で工業団地を造るのはいかがなものかということ、それからそんな状況下の中で企業誘致ができるのかという問題については9月の本会議の中でも今回の先ほど提案の質疑の中でも同じような質問が出てまいりました。私も全くその点については同じような危惧をいたしております。しかし、あなた方はこの地域活性化のために企業誘致の動きを止めてはいけないと。そのためには受け皿となる工業団地の造成をやらなきゃいけないという判断にたって、あえてこういう状況下でも再提案をされたというふうに基本的な理解をしておりますけど、それでいいのか。

また、一言一句変わらない再提案をされたということは、提案理由の説明の中でなにか言い残したいこと、言っておかなきゃいかんことを補足してこういう無用な混乱を招いているんじゃないかというふうな、あなた方は理解して一言一句変わらぬ再提案をされたのか。そういうものと基本的なことをまず一点お尋ねをいたします。

○ 経済部長

先ほど本会議でも答弁させていただきましたように、確かに経済の見通しが不透明な状況が依然続いているとは認識しております。ただ、それを産業振興課長が申しましたように、市内20箇所にあります工業団地はリサーチパークを除きほぼ完売状態となっております。いろいろ経済状況が不透明な中でも企業誘致を積極的に推進しながら地域活性化を図っていききたいとい

うことから9月議会でも答弁させていただきましたように、こういう状況下の中で対応に苦慮している企業もありますと同時に、こういう時期をチャンスととらえまして企業招致したいというような企業もございます。そういう中でトヨタ関連の企業につきましても減産体制に入っておりますが、鯉田工業団地につきましても自動車産業を主としていろんな産業に対して企業誘致をしたいという思いもございまして、一日も早く工業団地を完成し、企業誘致に取り組んでまいりたいというような考え方から今回再提案をさせていただいております。

○ 岡部委員

さっきの本会議上でも質問がございましたけれども、トヨタの生産規模といいますか、台数は下方修正をされておりますし、雇用の問題なんかが具体的な数字としてあがってきておるわけでございますよね。そういう現時点であなた方が持っている情報なり状況判断がどの程度のものなのか、どういうふうな認識の下に企業誘致に臨もうとされているのか、そのところを決意と申しますか、意思の確認をさせていただきたいと思っております。

○ 企業誘致推進室長

先ほどの本会議上におきまして、経済部長のほうもお答えをいたしました、北部九州に置けます上期の自動車の生産状況は対前年比18%増であります。ご指摘のように、リーマンブラザーズの金融不況によりましてトヨタ自動車九州におきましては大きな減産状況となっておりますが、残ります日産自動車苅田工場、そしてダイハツの中津工場におきましては対前年比プラスで上期が終わったというのが現状でございます。下期の予想につきましてはこれは新聞報道でも掲載されておりますとおり、おそらく前年比を割り込むであろうという厳しい状況に変わりはございませんが、なにせトヨタ自動車九州の状況を申しますと、その約7割が北米向けの輸出車両を現在まで生産いたしておりました。しかしこのトヨタ自動車九州の九州工場につきましては、トヨタ自動車国内に整備をいたしております工場の中でも指折りの最新鋭工場であります。生産コストが全国一安いといわれ、今まで売り上げを順調に伸ばしてきた。2007年度の売り上げでは九州発1兆円をこえる九州電力に次ぐ企業となったということになったということについてもご承知のとおりでございます。こうした優秀な設備を持った工場をこのまま減産のまま置いておくわけがないというのが愛知県内における現在の自動車業界の読みであります。いずれこの経済情勢、上昇に転じるというふうに予測をされますが、こうした産業界をリードする自動車産業の中でもトヨタ自動車先んじてこうした九州工場での増産体制にシフトするであろうということが今予想されております。現に12月1日からは新しいSUVと呼ばれるスポーツタイプの多目的車の生産ラインが稼働を開始いたします。つい先日佐賀のほうに企業さんに訪問してまいりましたが、こちらの企業さんではこの新たな生産ラインに部品を納めるべく現在フル稼働生産に入っているという状況でもございました。こうした状況を総合的に勘案いたしますと、非常に現在の状況は世界的金融不況から自動車業界、大きくブレーキを踏んでいるという状況ではございますが、トヨタ自動車にいたしましては1000ccクラスのIQと呼ばれる今後需要が望める非常に燃費のいい新車の販売も11月から開始をいたします。そうした状況を受けながら来週春のハイブリッド車の生産体制に臨むというふうに予想されておりますので、トヨタ自動車九州の今後の生産については年明け次第上昇に転じるのではないかとこのように私共は予測いたしております。でありますから、こうした状況を受けながらいち早く完成を目指します鯉田工業団地のほうに今後2年後、3年後をめどに九州進出を検討してある企業さんの誘致を進めてまいりたいというふうに考えております。東海地方からの企業の九州進出に関しましては、市長のほうもご答弁されておりましたように、昨年の新潟沖地震によるリケンの被災による部品調達のリスクの分散、これは現在も中堅どころの2次3次のサプライヤーが真剣に考えている状況でありますので、まだまだ北部九州の自動車産業の進出は可能だというふうには私共は確信をいたしております。

○ 岡部委員

今年の4月13日にあなた方は名古屋事務所を開設されているわけですね。それで、単身赴任で2人職員を送り出されて、現地でがんばっておられると思うんですけど、基本的に私も思うんですけど、物を売るときに商品がないで予約販売だけやって来いというふうな形というのは非常に難しい。やはりあなた方は名古屋事務所まで開設をしてやるということになれば、一日も早く工業団地の絵姿がせめて出来上がってなくても説明できるくらいの中で名古屋事務所の誘致活動をやっていただきたいと思うし、また、このことについては市長以下とにかく先頭を切ってがんばっていただきたいなど。それともう一つ、この鯉田工業団地と関連していますけど、メインのアクセスになる県道福間線の事業ですね。これについても、ものはできたけど道路がないとかいう話にならないように是非きちんと県道福間線の事業が件において推進をされるような積極的なあなた方の運動なり展開なりをしていただくことを要望しておきます。終わります。

○ 道祖委員

参考までにおたずねしたいんですけど、確かこの夏に県が主体となって宮若市に工業団地を造られたと思います。それが完成したと新聞報道があったと思いますが、この工業団地の規模と造成に費やした期間についてご存知であればお答えいただきたい。

○ 産学振興課長

規模ですが、189,200㎡ということになっています。造成期間ですが、詳細な数字は持ってませんが、約2年間ということを知っています。

○ 道祖委員

約18.9haでいいんですかね、飯塚市がつくろうとしてるのは17haでしたかね。同規模の工業団地をつくろうとしたときに順調に進んだ宮若の工業団地は約2年間を費やしたということですね。そういう理解でいいですか。

○ 産学振興課長

そのとおりです。

○ 道祖委員

今回否決された議案を再度同じ内容で提案されてるわけですね。緊急だということで提案されています。確かにいろいろ本会議で質疑の中で緊急についての質疑があっていましたが、私が見た資料によりますと、緊急の問題については召集権者の裁量に任されているという判例が出ていますので、それは召集権者の裁量の中で今回提案されたことだろうと思います。それと共に、この工業団地は平成22年3月末までの完成ということで考えられてると思いますので、今から仕事にかかったとしても1年3月、4月くらいしか期間がないというふうに思いますけど、工期の最後、末が決まっていますが、これが今回議決されたとして、実質仕事に入れてから完成までの間どれくらいの期間があるのか確認させてください。

○ 土木建設課長

工期としては若干遅れてる感もありますが、今から着工になれば約1年5ヶ月くらいになるかと思いますが。前の段取り等々がありますので1年4ヶ月くらいの工期ということになるかと思いますが、その間に完成できるように全力で頑張っていきたいと思っています。

○ 道祖委員

1年4ヶ月くらいしか見込めないと工期として、これが承認されたとしてですね。これが承認されずに、本会議で言われていたように10月24日ですか、指名停止を受けてた企業が停止解除になって、あらためて市が入札の準備をして入札をし、議会に諮ると、そういうふうになったときに、本会議場では12月議会間に合わない、3月議会になる可能性がある、その中で臨時議会でも開いたらいいじゃないかというご意見もありましたが、これが今回否決さ

れたときに、最短で議会が承認したとして、どの時点になるのか、議案を提案する時期が。そしてそれが可決され着工される時期がいつごろというふうに考えられるのか。そうした場合残りの工期がいつまでなのか。あくまでもこれは私が言うのは22年3月31日までという期日をもっての期間ですが、その辺はどのように考えますか。

○ 契約課長

契約課としてはこの議案について再度入札に付すということをございましたら、最短で仮契約をするとするならば約40日以上かかるのではないかとこのところでは思っています。

○ 総務部長

契約課長が仮契約等の事務的な手続きを申しましたが、そうしますと工期につきましては1年、これが確保できるかどうかという問題が生じてまいると思います。

○ 道祖委員

だから、いつごろに議案として、その40日は分かりましたよ、いつの段階で臨時議会なり定例議会に議案として上程することが可能なのか。それとそうした場合に、着工して完工までする間の期間はどれくらいになるか。1年くらいになりますという話じゃなくて、もう少し具体的に。例えばこれが否決されて40日かかるとしたら12月の頭ですよ、そして12月議会にかけることが出来るのか出来ないのか。出来ないとするなら年明け1月なり2月になってくると思うんですよ。例えば12月に可決されたら工事着工は1月に出来るのか出来ないのか、その辺なんです。私が聞きたいのは今回ここで否決され再度上程したときに、それが可決したときにどれくらいの最長期間がのぞめるのかというのをちょっと教えていただきたいんですが。

○ 森山委員

今、22年3月31日までということが出てますよね。これはそういうふうに3月31日までに造らないといけないのか。例えば契約が遅れるから22年5月までいいとか6月までいいと言うのは出来ないわけ。それも含んで答弁をしていただきたいんですけど、ただあまりに期限で切って行って、これは否決されるとか言うのは抜きにして、要するに3月31日までに造らなきゃいけないのか、それとも5月まで繰りこんでいいのか6月まで繰りこんでいいのかというのが1点と、3月31日までに造っても企業が来るかこんかわからんわけでしょ。だから僕がいつも言ってるように造る以上はきちんと整備をしてやろうというなら、ここではつきり2ヶ月3ヶ月遅れてもやりたいならやりたいというのがあるのか無いのか。何も3月31日にばたばた造って変なのが出来るとしても、4月から企業が来るならいいよ、わからないんだろ、前向き前向きというけど。それならそこのところも余裕を持ってこういう形とはつきり言っておいたほうがいいんじゃないか。また色々後で、その場その場の答弁をしていたら突っ込まれるよ、そこも含んだ中で答弁をお願いしたいと思います。

○ 経済部長

10月24日に再入札ですね、業者が指名停止が取れてその後再入札するとしますと、先ほど契約課長が申しましたように40日くらいかかります。そうすると12月議会での提案が出来ないと思われまので、1月に臨時議会をお願いするというような、最短でですね、臨時会が無ければ3月議会というようになるかと思えます。そうすると22年3月31日で完成させるとすれば工期が1年、1年ちょっとと臨時議会しても1年2月か1年1月ということになります。それと森山委員の質問ですが、22年4月から分譲開始したいという思いの中で造成工事を進めています。そういうことで何ヶ月遅らせたらということは考えずに22年4月から分譲したいということで企業誘致に取り組んでいますので、ご理解をお願いします。

○ 道祖委員

いらぬことを言いますが、あくまでも第3、第4、第5工区は契約が成立するわけですよ。

それは22年の3月31日までということになりますから、1工区、2工区が遅れることになると3・4・5の契約内容と違ってくるということになるから、あくまでも1工区2工区については22年3月31日ということが考えられると、私はそういうふうに思っていますから、ですから22年の3月31日ということで期限を切つてということはそこにあるわけですね。今の答弁ではうまく行っても1年2月にかかる、宮若市で出来た工業団地は約2年と、ということは同規模の工業団地はやはり1年半からそこいら程度は見とかなくちゃいけないということになるんでしょうかね。だから1年5ヶ月というのは、確認しますが22年3月31日の完工を目指すならばギリギリの線だというふうに理解をせざるを得ないと思いますが、その点はどうなんですか。

○ 都市建設部次長

工期の件でございます、この工事27.7ha造成というようなことですが、先ほど宮若市の件がございます、この宮若市につきましては1JV工事というようなことで、単事業でやったと、それを2年間と、飯塚市の場合5工区に分けさせていただいて、数多い業者に参入していただいて少しでも工期を短縮するという思いもございまして、そこには、そういったところもご理解していただいた中で22年3月末をもって完成させたいという意気込みであります。そういったところで皆さんのご理解をいただければ、お願いしたいと思っておりますのでよろしく願います。

○ 道祖委員

だから今回がギリギリの完工を22年3月31日とするならば、ギリギリの線なのかということですね。

○ 土木建設部次長

今言われますように、そのとおりでございます。

○ 道祖委員

私は先回の9月議会で、この案件については反対しています。けどその反対した理由はね、はっきり言っていますけど、工業団地は造っていただきたい、是非造ってほしいという思いで、この10数年間一所懸命言ってきましたので、特に鯉田出身でありますので鯉田の炭鉱跡地の問題については過去からの経緯がありますので、何らかの形で開発していただきたいということで取組んでいただくよう要望して来ていますし、それが昨年からは動き始めて工業団地の造成の費用もついて、やっと議案として上がってきたわけです。ある意味では正直言って安心していたところですけど、ただ、ここまで来るにあたって、指名競争入札の問題、工期の問題から始まって指名競争なのか一般競争入札なのかという話になって、工区をどのように分けるのかというような地域の経済の問題やら出てきまして、そして9月の提案になったわけです。しかし9月の提案になったときに1工区2工区については有資格者という業者が20者指定されながら、結果として10万立方メートルの土量を扱った業者という枠を設けた、規制を設けた結果として20者のうちの7者しか出来ないということになった。だから当初考えてた競争入札ということからは馴染まないんじゃないかということではいかがなものかということで、今日まで来て9月議会で反対して、今日まで来ておるわけですけど。私の反対した理由は公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律について、これも前回の委員会でも述べていますし、本会議場でも述べていますけど、この目的は公共工事に対する国民の信頼の確保である、そしてそれがためには第3条に公共工事の入札及び契約については4項の項目があり、その適正化が図れなければならないというふうになってるんです。これからみると疑義があるから私は今回反対するというのを先回述べさせていただいたわけですけど。今日ここまで来て同じ内容のものを提案するというのについて、提案する市長として、先回の委員会においては市長は出席されておられませんでしたので、あらためて確認させていただきますが、そういうふうに指摘して、

指摘して再度提案されています。ですから私は今までのあり方が議会に疑義を与えた、反対されたということについて市長はどのように思っているのか、その点を確認すると共に、今言ったように皆さんが提案してる議案は平成22年3月31日なんですよ、市長の任期は平成22年の3月までじゃなかったですかね。私は市長が市長になるときに地域の活性化ということで株式会社飯塚というような思想をもって一生懸命頑張るんだと、定住人口を増やす、企業誘致するなり、地域の経済を発展させるためにやりたいという思いの中で、その一つの手段としてこの鯉田の炭鉱跡地の開発はあったんだろうと思うんです。あなたの任期の中でこれをやり遂げて企業誘致のめどをつけたいというのが一つ目標としてあるのではないかというふうに、あなたの立候補のときからの姿勢で思っておるわけですけど、その点が、聞こえてこないのどのような思われているのか、あらためて、残り1年と数ヶ月になりました任期の中で、この新しい飯塚市をどのように持っていきたいのかですね、表明をしていただきたいと思うんですけど、その2点についてお答えいただきたいと思います。

○ 市長

私今度の1市4町の合併の最初に皆さんにお話しさせていただいたのは、合併して数字を見たときにそれぞれの市町村の中ではそれぞれのやり方があったでしょうが、飯塚市の財政状況を見たときには危機的状況であるという数字が出てきたわけですね。その中でじゃあ合併してこれからまちをどのようにつくっていかねばならないんだろうと考えたときに、やはりあのときの13万5千という人口がシミュレーションをしますと毎年1000人ずつ人口が減っていく、そういう流れの中でこのまちをそういう状態に陥らないようにするためにはどうしたらいいのかというようなことを考えたときにやはり企業誘致をすることによって雇用の場をそこに発生させなければならぬという問題があったわけです。その流れの中で三菱の跡地の話が、私はその前はい wasn't でしたから中に入った後のことですが、三菱のほうは飯塚市のほうに提供したいと、じゃあそういうのをいただいてそこに工業団地を誘致したらどうかというようなことを考えてみたわけでした。そういうことから今の流れがずっと来てる訳でした。どうしてもやはり今の金融不安というような世界的な不安は無かったわけでした、どうかして早く造りたいなど、これ、遅れば遅れるだけ2年間かかるわけですから、これをまたストップするなり延ばすなりすれば当然4年後というような形になってきたりという形で延びていきますから、その間に他の地域には工業団地を持つところもあるわけですし、我々としてはやはりいつも言ってるように他の自治体と競争して負けないものを持ちたいということの流れの中でこれはぜひとも造らなきゃならないというふうに考えて、私自身も東京、大阪、名古屋の方に出向いて企業誘致をやっているわけでした、どうかしてそこに雇用を発生させなければならぬ、そのためにはどれだけの工業団地が必要なのか、目尾の土地もありますけど、それだけで足りるのかという話をした流れの中で鯉田というものを造らなきゃならないだろうということ、これはどうしてもやりたいという形で議案を再度提案させていただいたわけでございまして、どうかしてこの議案が通って、本当に仕事がスムーズに進んで、こういう団地がありますよと、それこそ企業誘致の活動の中で、絵も見せられて、面積も見せられて、こういうことがありますからどうぞ来ていただだけませんかというような話を、今は見せることも何も、言葉だけで何も出来ないというのが現状でして、そういう意味ではものが無いところに、また議会でも可決をいただいていないところにこういうものがありますからということを経古屋で、例えば相手に対してものが言える訳じゃないわけで、ものがないものを売るなんていうのは、これは、だけでもそれが出来ないときには、じゃあ、あなたたちせっかく来ていただければその工業団地は議会でも否決されて、これはまちの方として望んでいない土地だから、せっかく希望を挙げていただけたけど申し訳ございませんと謝るわけにもいかんわけでございますので、そういう意味を含めて早くそういうものがあつたら提案をしていけるなという形で皆さんたちに、職員

もその意識の中で仕事をやっていってもらっていると思いますので議会のご理解を得たいということで今頑張っているところです。よろしくお願いします。

○ 道祖委員

市長の思いは当初から変わっていないと思うんですよ。その点は今のご答弁で理解いたします。ですけどね、先に私は2つお答えいただきたいと言いましたけど、今のお答えは2番目のお答えだと思うんですよ。ですから6月から工事に入りたい、契約を結びたいという思いをできるだけ工期は長いほうがいいということはありませんから、宮若の例も見ましたようにね、だから2年に近いほうがよかったんだろうと僕は思うんですけど、そういう思いで6月から6月議会にかけるなりすればまだ工期は長くなった。しかし結果としてそれが9月議会でも否決され、今日までに至ったわけですね。だからそここのところのね思いの伝わらなきていうものについてですね、やはり市長はここまで議会とのやり取りが行われておるということについては、やはり一言ですね何らかの言葉があって然るべきではないかと私は思うんですけど、その点はどうですか。

○ 市長

思いが無ければ議案の再提出というのは多分否決された段階で、じゃあ議会の中で否決されたのであればもうこれは止めるべきじゃないだろうとかかそういう話が検討したということをお答えしたと思いますけども、その段階でじゃあ止めていいんじゃないかと、私がその思いが無ければ、いやこれはやりたいからそれは止めるとか凍結という話も考えたこともありますし、そういう意味でですね、いやこれは今やっとなかないと後にまたこの同じような形で出た時にですね、よその地域からも負ける、ましてやよく話を聞くんです、こういう話があったと。新聞でも皆さんよくご存知だと思いますけども、直方でこういう企業誘致が出来た、小竹でこういう企業誘致が出来たという記事を多分皆さん相当読まれてると思うんです。その中で我々としては松尾工業団地のほうには3社ほど来ていただきましたけど、だいたいそれで埋まってしまうと思うわけでございまして。じゃあその後じゃあどこだという時にですね、これは持つておかなくてはならないという思いがあるから、全く同じもの再提案させていただいたということでご理解いただけないだろうかとこのところですよ。

○ 委員長

ほかに質疑はありませんか。

○ 森山委員

市長ね、今道祖委員もわざわざ言うていただくような形で多分遠回しに、今日再度出されているから多分変わってOKが出るだろうと今回僕らも思っております。私はまだ始めから変わりませんが。ただ私は先ほど変わらないから○になるだろうと思うから、私が先ほどから1年2ヶ月、1年4ヶ月工事にかかる、その差があるから、22年3月で任期が終わるからそれまでに仕上げたいんでしょ、と彼はそれなりに言ったわけ。しかし私どもとすればあなたにはまだまだ市長を続けていただきたいし、また個人的にも応援します。だからやっぱりスタンスというのは何十年も、僕らも議員になった時15年、20年やっぱりまちづくりというのは考えていかれるし、あなたも1年間やられて議会の難しさ、行政の難しさ、今初めて分かれたと思いますよ。我々も最初そうだったから。しかし今言ってるのは、この問題に然り、先も懇談会で申し上げましたとおりその場その場じゃなくして1年2ヶ月、1年4ヶ月間、じゃあ1年2ヶ月で仕上げますよと、それよりも僕は何で4月1日から打ち出したいんですよと部長は言ったけど、それも別にお客さんが並んでいるわけじゃないんだったら、いいものを造って1、2ヶ月遅れてでもいいからできませんかと言ってるわけ。1億2億オーバーしたっていいと思ってる、いいものが出来れば、それだけ潤うんだったら、いいものが売れるんだったら、買い手がいるんだったら僕はそれでいいとこの前の委員会から言ってるわけ。だからもう

少しね、市長を盛り上げてくれないと支える以上は担いだ以上はねやっぱりそれなりのアドバイスなり、間違っているものは間違っていると言い切らないとつまらない。遠回しに何度も言ってるでしょうが。

それともう一つ、ものは買う時でもこういう協定書があります。逆の立場になったら買えますか。何もかも飯塚市が請け負わないといけない、鉱害の問題から全部。安いよ1400万、あの広大な土地1400だろ、安いよこれは。なぜ安いか、何もかもこちらが受けるからだよこれ、鉱害問題も全部。書いてあるんだよこれに。これは俺も悪かった、勉強していない分。しかし反省もしてるけども、今後こういうことが我々とあなたたちがある程度ものを知った中できれいに説明した中で、買おうか買わないか、じゃあいき、こうしちゃらんですか、それじゃこれも買いましょうかという話が今後無いと、こういう問題がだんだん今から出てくるよ。リサーチパークを見てん。バブルがはじける前いい土地だった。しかし今ああいう状態になってます。地元だからものすごく怒られます。しかしもうちょっと待ってくださいと。あれは軽く安く売れないんですよと、お金がかかっているんですよ、1坪23万くらいかな、かかっているから、なかなか住宅用地には難しいですよと言ってますよ。だから今回のこの問題でも前向きと本会議で市長の決意表明言われたけど分かります、十分に分かる。しかし止まることの勇気が要りますよ、と永露議員も言っていた。現在ものすごく大きくはっきり言って荷に重なってます、僕も心配しています。しかしね、時代は経済は変わるからということであると思うけども、皆さんにお願いしたいと思う、僕はね齊藤市長1期で終わらない人だと思ってるから文句言います。なぜか、ながい飯塚市を守ってもらいたいからいやごとと言いますよ僕は。僕達はそれだけのものを託したんだから、1期で辞めてもらうために言ってるんじゃないんだから。その時点で15年なら15年のスタンス持ってね、やっぱり飯塚市というものを、特に厳しい状況ですよ合併した中の市長だから大変だと十二分に分かってます、そういうものを言ったでしょ部長たちに、同じ年代だから我々が今このまちをつくるべきじゃないかと言ったら、個人個人みなそうですよと言ったんですよ。ところがみんな答弁がバラバラじゃないか。そこにいつも僕ら怒ってるわけよ。一つにまとまってるらん。こんなに議会ももめないだろうよ。出してくるたびに議会が分断してるよ。そういうことじゃなくしてもうちょっとやっぱり執行部のほうからそれなりの形をお願いしたい、時間かけてきたっていいじゃない、2、3ヶ月遅れてもいいじゃないか、そういうことは。市長もきつと思うよ。一番苦しい時からなってきたんだから。しかしここからスタートと言うんだったら、もう少し従来どおりのいいところは取って悪いところは切り捨ててもいいんだけども。そういう形でねこういう問題も進めていかないと、今回でもう3回目だからね。こういうことがないように今後お願いしたいし、僕らも協力していきたいと思ってる。そういうことを含めながらこの問題についてはねはっきり言うけれども、僕の気持ちは変わりませんよ、変わらないけどあえてお願いしておきます。

○ 吉田委員

先ほど懇談会の中でお聞きしたかと思うんですけども、前回のこの案件が否決後にですね、執行部のほうでその後検討される中で3つの方法しかありませんよねと私がお尋ねしたんですよ。否決後先ほど市長も言ってありましたけども、信念が無いなら取りやめるか、あるいは修正して再入札するのかこれが2番目、3番目がそのままもう一度再提案するのか、今回の場合はその3番目になったわけです。1番目と2番目になった経緯をお聞かせくださいと先ほど私が質問をしたわけなんですよね。そしたら理由は分かります、先ほど市長が強い信念でおっしゃったとおり、せっかくこういう立派な工業団地を造るんだという信念がある以上は取りやめはないですよ。だから2番目、3番目どちらかになるのかなと私は思ってたんです。しかし2番目じゃなくて3番目になりました。この2番目の方法をなさらなかった理由を聞かせてくださいということに対しましては、先ほども出てました質問の中でも、時間的な問題で2番

目は検討はしたんですけど、少々無理がありますと。だから3番目に至ったんですという説明がありましたよね。だから私はそれでいいんです。1番目も検討した、2番目も検討した、しかし1番目もなじまない、2番目も考えてません、だから3番目、そのままで再提案させていただいてるんですけど、今回それになってるんですよ。それはいいですよ。先ほど本会議の中では、工事にからんだ質問事項が延々となされてました。私は選挙じゃありませんけど、地盤とかさほど考えてません。それこそ4億、3億、2億5千万、3工区、4工区、5工区はもうおったわけなんですから。1工区は4億何千万、2工区は3億3千万、だからこんなたいそうな費用をかけて造成されるんだらうから、地盤がどうのこうのはおそらく立派なものになるだらうと私も考えているんです。前回の6億5千万かけてですねコンサルに頼んで測量をやったんだということで、その結果1工区が4億3千万、2工区が3億3千万、おそらく執行部が言われるようにほぼ立派な造成がなされるだらうと思ってるんですよ。しかしながら私は造成うぬぬじゃなくて、出来上がった後の、先ほども質問に出てました、これを審議する時は自動車産業が下火になってるのは出てましたけど、まだ大恐慌下ではございませんでした、それが発覚していませんでした。しかしながら皆さんがご承知のようにですね、この問題が出てきて、今後果たして飯塚の地に企業誘致することができるのかできないのかと、大変皆さん疑念を抱いておられます。私もその気持ちが非常に強いんですよ。何でかと言いましたら、以前の田中市長だったか江頭市長だったですかね、第2次5ヵ年計画か第3次5ヵ年計画でその当時の旧飯塚市の人口は8万3千人、しかしこれを5ヵ年計画で10万人にするという執行部からの提案があったんです。立派な冊子も出ました。おそらく今いらっしゃる方はその当時の係長、課長ぐらいだったらうと思います。しかしそれが4年後くらいにどうだったでしょうか。8万人が10万人になるどころか、8万3千人が逆に8万を切る状態になったんですよ。見誤りもはなはだしい結果になったんですよ。10万人どころじゃないんですよ。だから今回のこの計画もそうならなければいいがなと私は懸念をしてるぐらいです。その時に先の懇談会で名古屋事務所が開設して6ヶ月になるというお話を聞きました。そうしましたときに、6ヶ月経てば飯塚に企業進出した印ですよという企業が1社か2社か3社くらいは出てきている話が起きていますかという質問をさせてもらいました。しかしそんな話は先ほど質問の中では1社も2社もあんまり話がないみたいで。造成工事を待つてあるのか、出来上がるのを待つてあるのか知りませんが、本当に飯塚市に進出したいというような誘致活動を一所懸命やられているんだたらもう1社か2社か3社くらいは名古屋事務所のほうに打診があってもいいんじゃないかなと私は思うんですよ。そのところをちょっともう一度聞かせてください。

○ 企業誘致推進室長

名古屋事務所を4月に開設いたしまして、現在まで約半年間、懸命に誘致活動を進めてまいりました。議員ご指摘のとおり、やはりこうした企業を立地していただくには現地にご案内して、その現地の現状をつぶさにお見せするというのが一番有効な手段であると私共は考えております。そうした中で現在、集積をいたします自動車産業等を中心に九州への進出を検討されている企業さん、特に2年後3年後ぐらいに進出を検討しようかなと考えている企業さんなどの情報を集めながら現在活動を進めているところです。全くそうした活動が進んでないということではございません。7月から契約をいたしました企業誘致アドバイザー、こうした人脈や情報をもとに現在、過去よりもずいぶんと訪問先も増えているのが現状であります。そうした中で今後は工事の進捗状況等をお見せする機会ができればよりいっそうそうした企業さんも理解をしていただきながら、この地へ立地を検討いただけるのではなかろうかというふうに思っております。現在のところ紙ベースの資料であるとか、私共が知りえている範囲の企業情報、企業の動きなどをお知らせしながら誘致活動を進めているというのが現状であります。

○ 吉田委員

わかりました。飯塚の造成工事はいつ完了するんですか、いつ出来上がるんですかという打診はいくつかありましたか。

○ 企業誘致推進室長

訪れる企業さんがいつも聞かれます。いつ頃出来上がるのかというのは聞かれない企業さんがないくらい聞かれております。

○ 吉田委員

少し安心いたしました。先ほどからも言いましたように、市長が再提案されるということは、先ほど力強く、否決された事件でやる気がないなら取りやめていると。しかしながらその思いは強いんだと、そういう力強いお言葉を聞かせていただきました。もう一度、私はものすごく心配しておりますので、立派な造成工事が完成したときには本当にそういうことを真剣に考えてやっているんだから、立派な工業団地に仕上げますと、またみんなで検討した結果それは十二分に可能ですと。今の大不況ですけど。先ほどもちょっと言わせていただいたんですけど、ことわざの中によく皆さんたちも言われるように災い転じて福となすとか塞翁が馬ということわざがありますよね。だから、今の大恐慌のような一番悪いときに幸と不幸は背中合わせということわざどおりに、この一番悪いときにこういう造成工事をやってちゃんとした志を持ってやられるんだから、必ず成功させますという力強いお言葉をもう一度お聞かせいただいて私の質問を終わらせたいと思いますので、市長、答弁をよろしくお願いします。

○ 市長

先ほど道祖委員のほうから話がありましたけれども、私の任期中とか任期じゃないとかじゃなくてこの工業団地は造らなきゃならないから、任期が終わろうが手前であろうが私はこの工事はしなきゃならないということであって、森山委員のほうから、がんばってもらわないかんから、あと1期というようなありがたいお話もありましたけれども、それは来年再来年の3月に挙げてみないとわからないところがございますけれども、それが過ぎた後であろうがこの地域には必要だと、職員のほうもそれを意識を持ってその仕事にあたっていただいているわけがございます、どうしても私はこれはやりたいんだということの思いの中でさせていただいたわけで、ちょっと日にちが6月、9月という形で延びましたけれども、これはどうしてもいい工事をしたいという流れの中で私は話が時間がちょっとかかったということに関してはご理解いただきたいと思っております。先ほど言われたのが3つのお話がありましたけれども、中の内容を変えてということは私はできないと、中を変えるならじゃあ何で最初から変えていいものをという思いを、お前たちがやり方を考えなかったのかと職員のほうを私は叱ったわけで、私の考えの中には中を変えてということ、中を変えるなら最初から中を変えたものを出せばいいじゃないかというようなことで職員のほうには言いましたけれども、私は同じものを提案してもしご理解できなかった分があるんじゃないかという形で、もう一回説明をしましょうと、そしてそれでご理解できなければ仕方ないじゃないかという形で私は今回の再提案をさせていただいたわけですので、ぜひともよろしく願いいたします。

○ 吉田委員

もちろんいま聞いていましたけど、もう一度必ず失敗はせずに立派なものに仕上げるという決意をもう一度聞きたいという質問をしたんです。前回のさっき言いましたように、10年前か11年前かちょっと知りませんが、5ヵ年計画、8万3000人の人口を10万人にするんだという、しか、必ず出来上がるような自信を持ってその計画を出されたんですよ。10年か11年前、覚えませんが、田中市長だったか江頭市長だったかわかりませんが。しかしその結果8万3千人が10万人になるどころじゃなかったんですよ。逆に人口は8万人を切るくらいまで落ち込んだんです。あの計画はどういう計画の下で、なんだったんだと言いたくなるくらいに、いま合併して13万いくらになりましたけど、しかしその当時はお金をかけてな

いからまだ計画だけでよかったけど、今回は先ほど質問の中にありましたように、26億、27億の投資をして巨大な市民の血税を投資してやる事業ですから失敗は許されないんです。前回のように8万3千人が10万人にしますよ、必ずしますよ、ができないまま8万人を切るような状態の無様なことにならないように決意をお聞かせいただきたいと、もう一度、市長、どちらでも結構です。相当研究された上でこの造成工事を出されてきたんでしょうから。自信を持ってお答えくださいよ。みんな不安を持っているんですよ。造成工業団地だけ造っておけば何とかなるだろうじゃないんですよ。だから、絶対成功させなという自信のほどが伺えないんです。また、5ヵ年計画から先ほど人口の問題なり、ああやっぱりダメでしたにならないように、決意をお聞かせください。

○ 副市長

決意を、ということですが、皆さんご存知のとおり、私たち、行政を預かって住民福祉の向上のために日々努力しているわけですが、その中でいろいろと経済情勢というのは変わってまいります。食糧品がいい時代、あるいは製造業がいい時代、あるいはIT関係がいい時代、あるいは輸入事業がいい、輸出事業がいいとかいうことで、いろいろ経済状況が変わるものと考えております。その中で私たちは、今、飯塚市にとって一番何が必要なのか、どうしたら飯塚市を活性化できるのか、飯塚市民を幸せにできるのかというようなことで、日々努力しておるつもりでございます。その中で今回、鯉田のほうに工業団地を造成して、そこで地域浮揚を図っていこう、特に鯉田あたりは、昭和38年に飯塚市が合併して、その後また合併という経過をたどっておりますけれども、昭和38年の合併以降も鯉田地区というのは炭鉱が閉山しまして地域が疲弊した地区であります。そういうふうなことで、今後の飯塚市をよくするためには炭鉱跡地の活用というのが絶対必要なことであろうと私は考えております。例えば、今までのように山を削り、あるいは田んぼを埋めて新たな土地を造るよりか、今持っている土地、今活用されて無い土地を有効に利用して、地域の活性化のために役立てていくというのが、是非必要ではないかというふうには私は考えております。そういう意味で、今回三菱さんのほうから、この土地を活用してくれないかということで相談があったわけですが、そういう相談で私たちの今から先の飯塚市を活性化するためには、いい提案ではないかということで、いろいろ研究もさせてもらいました。その中で、いくらかの問題点が浮かんできました。それは、議会でご指摘のとおりでございます。その中で、そういうところをどういうふうに克服していくかということで、いろいろ外部の知恵も借りながら、今回造成工事というふうな格好で議会のほうにお願いしたわけです。そういう強い思いがありますので、私たちはこれが何も失敗するということを前提に工業団地を造成するか、そういうことではございません。是非、ここに工業団地を造って、出来るだけいい企業をここに誘致して、飯塚市の浮揚発展のために役立てたいと思っております。先の本会議でも市長が答弁いたしましたように、1年間に1,000人の人口が減っておるという答弁がありました。ご存知のとおり飯塚には大学が3つあります。若者もいっぱいおります。その中で、しかも1,000人減っていきよるという現実を考えた場合には、是非そういう企業を誘致して、地域の経済力をやはり上げていくと。その結果として、定住人口も増やしていくというようなことが、是非必要であろうと私は思っておりますので、今回は是非、工業団地造成をさせていただきたいと思っておりますし、また出来た暁には職員一同、最大限の努力をして企業誘致に努めたいというふうには思っております。

○ 吉田委員

前回の市民経済委員会で申し上げましたように、今回の1工区から5工区まで区割りしてありますけれども、最低制限価格で皆さん落札してあります。だから今まで議員活動してまいりまして工事の途中、また終了後に契約の増額変更がですね何度も出てきた記憶がございます。今回は地盤の大変難しいですよね、だからこの1工区から5工区までの工事の中におそらく契約

価格の増額変更願いが出てくると強く懸念してるんですよ。だから本当に厳正に対処されるように強く要望しておきたいんです。そうじゃないと最低制限価格で落札して85%になってますけど、2千万、3千万円増えると落札率が85%じゃなくて90%にすぐなるんですよ。だから何でも最低制限価格で落札していると言ってますけど、すぐ90%とかになりますので、そういうことにはならないように厳正にですね、もしそういう変更届が出てきましたら対処していただきたいことをお願い申し上げまして終わります。

○ 委員長

ほかに質疑はありませんか。

○ 道祖委員

先回の委員会でもお尋ねした内容を再確認しときたいんですけど、商品として出来上がった土地を分譲する時には、これは広さ、価格、そしてその地盤の特質等は、当然私は商品の品質として明記して売っていくものだというふうに理解しております。先回もお尋ねしましたが、この鯉田の工業団地と同じような工業団地は、この筑豊、産炭地の開発ではいろいろ行われてきているという答弁でありました。再度確認ですけど、鯉田が出来上がった時の地耐力ですよ、同規模の地耐力は先回もお答えいただいておりますけど、どういうところがあるのか再度お尋ねしますとともに、小竹の遠賀川の横に整備公園でしたか、工業団地を造って数年間売れなかったところに、ここ2、3年で企業が数社6、7社出てきておると思いますが、あそこの地盤の強度がどれくらいあったのか参考までに確認させていただきたいのですが。

○ 産学振興課長

ただ今お尋ねの小竹の工業団地につきましては、N値50までは深度20mでございます。

○ 都市建設部次長

今、産学振興課長のほうから小竹の方の地耐力ということで、N値が20m付近で50というようなことでございます。飯塚の場合、先日の議会の中でいろいろお話しさせていただきましたが、ギロはそれはあります、はっきり申しましてですね、ギロは21mぐらいで沈殿したところがございます。まず4m、3mぐらいをカットして盛土に利用すると、その下3mぐらいを改良すると、その下に残るのが14、5mぐらい残るわけです。その14、5mぐらい残ったところについては、N値がやはり50、それよりも浅いところがございますので、小竹よりも浅く硬いところがあるという判断をしております。

○ 道祖委員

とするならば、鯉田工業団地がN値50のところ、小竹とそんなに変わらないということになれば、先回もご答弁いただいておりますけれど、筑豊で出来ている工業団地は、鯉田に造ろうとする工業団地の地耐力に比較すると、それ以下の地耐力のところも多くあるけれども、工業団地として造成し完了して販売に結び付けていっておるといふふうに理解してよろしいですか。

○ 都市建設部次長

今、言われるとおりでございます。

○ 委員長

他に質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。

討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。

採決いたします。議題中、議案第89号「契約の締結（鯉田工業団地造成（1工区）工事）」

について、原案のとおり可決することに賛成の委員は挙手を願います。

（ 挙手 賛成多数 ）

賛成多数。よって本案は原案どおり可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第90号「契約の締結（鯉田工業団地造成（2工区）工事）」については、原案のとおり可決することに賛成の委員は挙手を願います。

（ 挙手 賛成多数 ）

賛成多数。よって本案は原案どおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上をもちまして市民経済委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。